

## グループワーク課題

下記の3つのテーマから一つを選び、各テーマを分析する調査の調査票案を作成しなさい。調査票は25問程度(20~30問)の質問から構成されるものとする。調査票の作成に当たっては、設問の説明を十分に読み、問題意識や分析の枠組を明確にすること。

なお、各グループは、7月9日(水)に行われる中間プレゼンテーションで作成した調査票案のプレゼンテーションを行う。

### テーマ1: インターンシップによる大学生の職業観への影響について

入社初期に退職する大卒者が増えている。また、そもそも正社員を目指さない「フリーター」もその数が年々増加している。そのような環境の中で、学生と企業のマッチングの場としての、「インターンシップ」が導入されてから数年が経過した。インターンシップ経験によって、大学生がどのように、またどの程度その職業観に影響を受けたのかについて、分析しなさい。また、アルバイト経験が職業観に与える影響との違いについても検討しなさい。

キーワード: インターンシップ、職業観、働き甲斐、就職活動

参考文献: 大久保幸夫(2002)『新卒無業』東洋経済新報社  
安田雪(1999)『大学生の就職活動』中公新書  
村上龍(2001)『JMM VOL.13 : 若年労働者の危機 未来のあるフリーター未来のないフリーター』NHK 出版

### テーマ2: 日本人の「ブランド」に対する意識について

ここ1・2年、欧米の一流ファッションブランドが日本に大規模直営店を構えるようになってきている。そもそも所得の比較的低い若年層が、一流ブランドの服飾品を普通に身につけるようになってきている。「ブランド」好きといわれる日本人の深層意識について、分析しなさい。

キーワード: ブランド、品質、シグナル、顕示的消費、記号の消費

参考文献: 石井淳蔵(1999)『ブランド 価値の創造』岩波新書  
山田登世子(2000)『ブランドの世紀』マガジンハウス  
ジャン・ボードリヤール(1980)『物の体系: 記号の消費』法政大学出版局

### テーマ3: 能力評価の基準について

大学生の人気企業として外資系企業が上位に上ったり、大手企業でも「成果主義」評価を導入するところが増えるなど、実力主義、成果主義が日本社会に浸透してきた。しかし、何ををもって「実力」「能力」と評価するかは、大きくばらついている。ホワイトカラー・サラリーマンが評価される「能力」の基準について、何を希望し、何を受容・拒否しているのか、その現状を分析しなさい。

キーワード: 能力評価、成果重視、プロセス重視

参考文献: 小池和男(1993)『アメリカのホワイトカラー』東洋経済新報社  
江波戸哲夫(2002)『成果主義を超える』文春新書  
内田 研二(2001)『成果主義と人事評価』講談社現代新書